

岩手県下関伊郡山田町における

祝言のあいさつ

大西拓一郎

○はじめに

1. 対象地の地理的環境：リアス式で知られる三陸海岸の陸中海岸のほぼ中央部にあり、釜石市と宮古市のほぼ中間に位置する。それぞれから直線で約20km。重茂半島と船越半島に囲まれるようにした山田湾に臨み、山岳部が海に落ち込むように存在するため平野部は少ない。
2. 対象地の社会的経済的環境：山田湾は天然の良港であり、産業も漁業が中心。スルメイカ、サンマ漁業の拠点。
3. 生業：2に同じ。但し、話者でかつ調査を手伝って下さった伊藤氏はもとは教員であるが、赴任地は山田町内のみ。
4. 交通：JR山田線が通り（昭和10年開設）、交通の便は比較的良い。盛岡まで鉄道で約3時間、宮古まで約30分、釜石まで約40分。
5. 人口：約2万5千人（山田町）
6. 調査年月日：1990年9月3日
午前9時から11時まで、及び同日午後
7. 方言話者：伊藤真佐 大正2年10月生まれ（76歳）、女性。
武藤ミヨ 明治44年生まれ（78歳）女性、山崎幸子 昭和13年生まれ（52歳）、女性。そのほか、武藤福寿 明治44年生まれ、男性が武藤ミヨ、山崎幸子の調査に同席。→注
8. 調査者：大西拓一郎（伊藤真佐氏を調査）、伊藤真佐（本人以外を調査）→注
調査場所：話者自宅
9. 調査方法：面接による質問法→注

I. 結納授受のあいさつ

1. 仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。

↑○コノタビワ オケッコウサマデ ゴザンス。この度はおめでとうございます。

↑○キョーワ オヒガラモ ヨイノデ オユイノーダテニ アガリモーサンシタ。ドーゾオサメテ クダサンセ。今日はお日柄も良いのでお結納を

差し上げに上がりました。どうぞ納めて下さい。

2. その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。

↑○コノタビワ ドーモ トーイ トコロオ ワザワザ ゴクローサンデ
ゴザンシタ。この度はどうも遠いところをわざわざご苦労様でございました。

↑○オココロズクシノ オユイノー アリガタク チョーダイ イタシャンス。
お心尽くしのお結納をありがたく頂戴いたします。

↑○ムコーサマニモ ヨロシク オレーオ モーシアゲテ クダサンセ。
先方様にもよろしくお礼を申し上げて下さい。

3. その時の新婦のあいさつがあれば記して下さい。

↑○ドーゾ ヨロシク オネガイ イタシマス。どうぞよろしく願ひいたします。

II. 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁をもらうことが決った家の人に道で出合つて、近所の人たちはどのようなお祝いのあいさつをしますか。

↑○～サンワ キマツト データーフーデ オケッコーサマデ ゴザンス。

マーマー ゴアンドーデ ゴザンス。～さんはお決りになったそうでおめでとうございます。まあまあご安心でございます。

2. 嫁をもらう家の方は、そのあいさつに応えて、どのようなあいさつをしますか。

↑○ハー オカゲサマデ アンドー イタシャンシタ。はいお蔭様で、安心いたしました。

↑○コレカラモ ヨロシク ゴメンドーオ オネガイ イタシャンス。これからも、よろしく面倒見て下さるよう、願ひいたします。

III. 嫁を出すことが決った家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁を出すことが決った家の人に、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

○「コノ」タビ「ワ」・オ「ケ」ッコーサンデ「」 ゴ「ザ」ンシタ。「ソ」チ「ラ」ム
スメサン「」 オ「キ」マリ ヤ「ッ」タ「ソ」ー「デ」。この度はおめでとうございま

す。お宅の娘さん、お決りになったそうで。

○「イズ ゴ「ケツコンシ「キ「デ ダ「ンス。 いつ、ご結婚式ですか。

2. 嫁を出す家の方は、そのあいさつに答えて、どのようなあいさつをしますか。

○オカゲサンデ ゴ「ザ「ンシタ。 お蔭様でございました。

○ツトマリヤンス「カ「 ツトマラナー ゴザンス「カ「 「コレ「カラ「モ 「ヨロ「シ「ク オネ「ガ「イ イタシャ「ンス。 勤まりますか、勤まりませんか（わかりませんが）、これからもよろしくお願いいたします。

IV. 結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは（親戚以外）、どのようなあいさつをしますか。

1. 新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

↑○オメデトー ゴザンス。ゴアンドーデ ゴザンス。おめでとうございます。ご安心でございます。

1-2. 父親は、それに答えて、どのようなあいさつをしますか。

↑○コレモ ミナサンノ オカゲデ ゴザンス。 これも皆様のお蔭でございます。

↑○イー ヨメオ イタダイテ アンドー イタシャンシタ。 良い嫁をいただいて、安心いたしました。

↑○コレカラモ ドーゾ ヨロシク ゴメンドーオ オネガイ イタシャンス。これからも、どうぞよろしくご面倒を（見て下さるよう）お願いいたします。

2. 新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

↑○オメデトー ゴザンス。 トテモ キレーナ オヨメサンデ オニアイノ ゴフーフデ ゴザンス。 コレデ ゴアンドーデ ゴザンス。 おめでとうございます。とてもきれいなお嫁さんでお似合いのご夫婦でございます。これで、ご安心でございます。

2-2. 父親はそれに答えて、どのようなあいさつをしますか。

↑○オカゲサマデ ヨメニ イタサンシタ。 お蔭様で嫁にいたしました。

↑○ナントカシテ オットメ シテクレレバ ヨゴザンスガ コンゴトモ
ヨロシク オネガイ イタシャンス。 何とかしてお勤めしてくれれば良い
のですが、今後ともよろしくお願いいたします。

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて、近所にあいさつをして回る時、姑はど
のようなあいさつをしますか。

↑○オラホーノ ヨメデ ゴザンス。 コレカラモ ヨロシク オネガイ
イタシャンス。 私共の嫁でございます。これからもよろしくお願いいたし
ます。

2. そのあいさつに応じて、近所の人にはどのようなあいさつをしますか。

↑○マーマー オケッコーサマデ ゴザンス。 イー オヨメサンデ ナニ
ヨリデ ゴザンス。 コチラモ ヨロシク オネガイ イタシャンス。 ま
あまあ、おめでとうございます。良いお嫁さんで何よりでございます。こち
らもよろしくお願いいたします。

VI. 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男（29歳）に嫁をもらった60歳台の父へ、結
婚式に招かれた50歳台の女性が、屋下がりの路上で、どのようなお祝いの
あいさつをしますか。

○アー コノタビ「ワ」 オ「ケ」ッコーサンデ ゴ「ザ」ンシ「タ」。 コノア
イ「ダ」ワ ワザ「ワ」ザ オヨビイタダイ「テ」 ホン「ト」ニ アリガト ゴ「ザ」
ンシ「タ」。 ああ、この度はおめでとうございました。この間は、わざわざ
お呼びいただいて、本当にありがとうございました。

2. 父親はそれに応じてどのようなあいさつをしますか。

○コノアイ「ダ」ワ 「オ」イソガシー トコロオ ゴク「ロ」ーサンデ ゴ「ザ」
ンシ「タ」。 この間はお忙しいところをご苦労さんでございました。

○オカゲサンデ 「マ」ズ 「シ」ューゲン「モ」 オワツテ「ニ」 ホン「ト」ニ ア
リガト ゴ「ザ」ンシ「タ」。 お蔭様で、まず、祝言も終わって、本当にありが
とうございました。

○「ナ」ニ「モ」カ「ニ」モ イタラ「ネ」ア ムスコデ ゴザンスツ「ケ」ニ コ
レカ「ラ」 ヨロシク オネ「ガ」イ イタシャンス。 何もかも至らない息

子でございますので、これから、よろしくお願いいたします。

Ⅶ. 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦（あるいは両親）がお礼に行った時、どのようなあいさつをしますか。

○コノタ「ビ」ワ ドー「モ」イロイロト ゴメン「ド」ー オカケシテ 「ア」リ「ガ」トー ゴ「ザ」イマ「シ」タ。 この度はどうもいろいろとご面倒をおかけして、ありがとうございました。

○ソノヒ「モ」 「オ」イソガ「シ」ートコロ ワタシタ「チ」ノタメニ コーシテ オイデクダサツ「テ」 オカゲサマ「デ」 バンタン ツトマツテ スツカ「リ」 オセワニ ナ「リ」マ「シ」タ。 その日も、お忙しいところ私たちのために、こうしておいで下さって、お蔭様で万端勤まって、すっかりお世話になりました。

○ナニトゾ コレカ「ラ」モ ヨロシ「ク」 「オ」ネ「ガ」イ イタシ「マ」ス。 何卒、これからもよろしくお願いします。

<以上、新郎新婦から仲人へ>

○コノタ「ビ」ワ イロイロ「ト」 コドモ「ラ」ノタメ「ニ」 オ「セ」ワ「イ」タ「ダイ」テ ア「リ」ガ「ト」ー ゴ「ザ」イマ「シ」タ。 この度はいろいろと子供らのためにお世話いただいてありがとうございました。

○オカゲサマ「デ」 ケツコン バンタン ト「ト」ノ「ツ」テ オイソガ「シ」ー トコロー イロイロ「ト」 オ「セ」ワ「ク」ダサツテ ア「リ」ガ「ト」ー ゴ「ザ」イマ「シ」タ。 お蔭様で結婚万端整って、お忙しいところをいろいろとお世話下さって、ありがとうございました。

○コレカ「ラ」 ナニカト イタラナイ モノ「タ」チ「デ」ス「カ」ラ ゴシ「ド」ー マ「デ」 オ「ネ」ガ「イ」シ「マ」ス。 これから、何かと至らないものたちですから、ご指導までお願いします。

<以上、両親から仲人へ>

2. 仲人は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○コノタ「ビ」ワ オメデトー ゴ「ザ」イ「マ」ス。 この度はおめでとうございます。

○ワタシタ「チ」ワ イタラ「ナ」イ モノ「ド」ーシ「デ」 ヤツテ ソレ「デ」モ ケツ「コン」シ「キ」ガ ブジ「ニ」 シュー「リ」ヨーシ「タ」コトー ワタシ「タ」チ

ヨロ「コ」ンデオリ「マ」ス。 私たちは、いたらないもの同志でやって、それでも結婚式が、無事に終了したことを私たち喜んでおります。

○ホン「ト」ニ イタラ「ナ」イノウ オワビシ「マ」ス ケレドモ 「カ」エツテ コチラ「コ」ソ。 本当にいたらないのはお詫びしますが、かえってこちらこそ。

<以上、仲人から新郎新婦へ>

○ホン「ト」ニ コノ「タ」ビワ オケッコウ「サ」ンデ ゴ「ザ」ンス。 本当にこの度はおめでとうございました。

○アノ ケツ「コン」シキモ 「マ」ー「マ」ー ザツ「デ」 イタラナカッタケドモ 「ナン」ト「カ」 シューリョースルコ「ト」ガ デ「キ」テ オ「ケ」ッコウ「サ」ンデ ゴ「ザ」ンシタ。 あの結婚式も、まあまあ雑で至らなかつたけれども何とか、終了することができておめでとうございました。

○コレカラ「モ」 オチカズキニ「ナ」ツテ ゴイッショ「ニ」 イキタイ「ト」 オモイ「マ」ス「ガ」。 これからも、お近付きになって、ご一緒に行きたいと思っております。

○ワタシタ「チ」 イタラ「ナ」カッタケドモ ケツ「コン」シキ「モ」 オワツテ ヤット ゴアンドー「デ」 ゴザンシタ。 私たち至らなかつたけれども、結婚式も終わって、やっどご安心ですね。

<仲人から新郎新婦へ>

Ⅷ. 嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1. 嫁のはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

↑○デワ イツテキマス。 では、行ってきます。

2. 両親は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○ソイジャ キー「ツ」ケテ イツ「テ」キ「テ」ネー。 ムコー「ノ」 ゴ「リ」ョー「シ」ン「ニ」 ヨロシ「ク」 イツ「テ」ク「ダ」サイ。 それじゃ、気を付けて行ってきてね。向うのご両親によろしく、言っておいて下さい。

○アラタマツ「タ」 オミ「ヤ」ゲモ アゲラ「レ」ナイ 「ケ」ドモ コノアイダ「ワ」 ゴク「ロ」ー「サ」ンデシ「タ」ツテ ツタエテチョー「ダ」イ「ネ」。 改まったお土産もあげられないけれども、この間はご苦労様でしたって、伝えてちょうだいね。

注：はじめは大西が伊藤真佐氏についてすべて、調査した。しかし、伊藤氏より自分の発話について十分に当該方言として正統であるかどうか不安があるとの意見が出され、自分で別の人に当って収録したいとの申し出が大西になされた。大西はできれば、その収録にも立ち会いたかったが別の調査の約束が詰っていたため、伊藤氏の申し出を受け入れて収録をお願いすることにした。伊藤氏の収録を聴くと確かに伊藤氏の発話よりもやや方言色の強いものもあるが、一方で伊藤氏の発話の方がかえって、方言らしいものもある。そこで、ここでは大西が全てを聴き取り、取捨選択した資料を示した。資料の○の前に無印のは伊藤氏の発話、↑の付いているのは武藤ミヨ氏の発話、↓は山崎幸子氏の発話である。もとより、この選択にあたってはすべて大西の責任で行なったものである。なお、伊藤氏の収録した資料は一度紙に書いたものを朗読させたようで、音調に不自然なところがあった。そこで、↑と↓の付いた資料には音調は示さなかった。

*表記について

- ① 「は音調の上りを、」は下がりを示す。
- ② カ行音、タ行音の語中での有声化は認められるが、読みやすさを配慮して、概ね表記には出していない。特殊環境以外のそれらについては有声化するものと見られたい。
- ③ 分かち書きはおおむね文節で切っているが、正確にあてはめているものではない。
- ④ 文の切れ目で改行した場合とそうでない場合とがあるが、これも、読みやすさを優先したままで、それ以上の意味の有るものではない。改行したのも前の行と続けて発話されているものとみなされたい。
- ⑤ カタカナで示した会話例の「。」は、文の末尾を示すもので音声とは無関係であることはいうまでもない。

(おおにしたくいちょう・国立国語研究所)